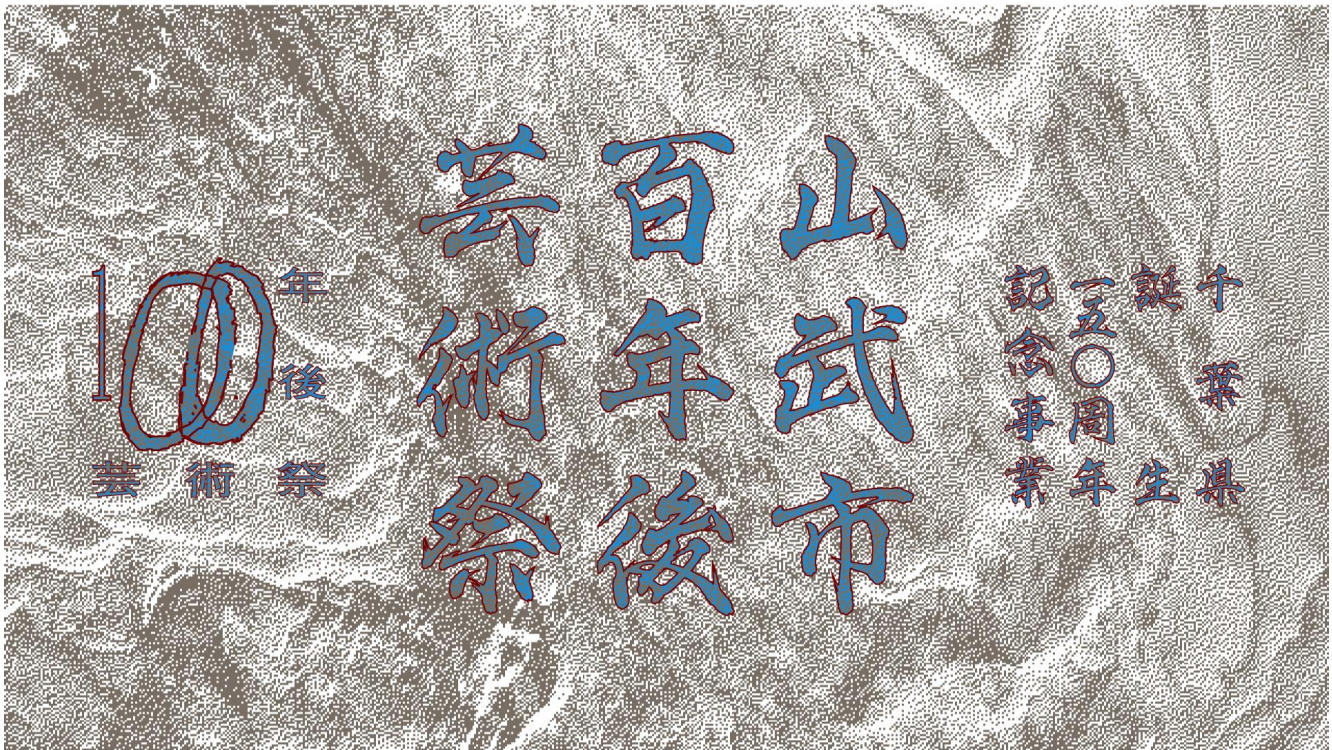


＜ 千葉県誕生150周年記念事業 山武市百年後芸術祭 ＞

- SIDE CORE、加藤泉ら、参加アーティスト17組および展示エリアを発表！
梅田哲也によるパフォーマンスなどの関連プログラムも実施。
- 小林武史× 四家卯大、切腹ピストルズによる音楽パフォーマンス開催が決定！



メインビジュアルデザイン：岡崎 真理子(REFLECTA, Inc.)

山武市百年後芸術祭実行委員会は、千葉県誕生150周年記念事業の一環として、2024年4月27日(土)から5月19日(日)にかけて山武市百年後芸術祭を開催いたします。山武市百年後芸術祭では、アート、音楽といった表現を通じて、鑑賞者とともに、これまでの100年を考えることで現在を考え、更にこれからの100年を想像する機会を提供したいと考えています。

山武市百年後芸術祭ディレクターを務めるのは、現代美術家・保良雄。近年、森美術館や銀座メゾンエルメスフォーラムで開催された展覧会に参加するなど、いま注目される作家のひとりです。保良氏によって、17組の参加アーティストが選出され、展示エリアが確定しました。国内の現代アート界を牽引するSIDE CORE、梅田哲也、加藤泉などから、千葉県東部を拠点に活動を行うアーティストまで、多様な表現手法を持つラインナップが一堂に会します。アーティストたちは、独自の視点によって山武市の歴史・風土・文化を見つめて制作した作品などを市内の4エリア（JR成東駅周辺エリア、柴原エリア、山武市歴史民俗資料館エリア、九十九里浜エリア）にて発表いたします。九十九里浜エリアには、橘田優子 (kitta 主宰) による、最長約100mの琉球藍を染料とした藍色の旗のインスタレーションも予定しています。さらに、アート作品展示関連企画として、梅田哲也によるパフォーマンス、大塚諒平による梅干し作りワークショップも開催します。

また、アート作品展示に加え、音楽パフォーマンスの実施が決定しました。1920年に日本で初めての天然記念物に指定された成東・東金食虫植物群落を舞台に、百年後芸術祭の総合プロデューサーでもある小林武史が、多彩なジャンルで活躍するチェリストの四家卯大とライブを行います。成東・東金食虫植物群落で音楽ライブが開催されるのは初の試みとなります。国内各地で迫力あるパフォーマンスを繰り広げ、熱狂的人気を誇る和楽器集団・切腹ピストルズは、切腹ピストルズは、九十九里浜に向かって田植えシーズンの九十九里平野を練り歩くパフォーマンスを予定しています。

アート、音楽を通じて千葉・山武市の魅力を体感できる貴重な機会にぜひご来場くださいませ。

参加アーティスト・展示エリア

■展示エリア

※会期中、展示エリア間の巡回バスが運行します。（詳細は、後日公式ウェブサイトにてお知らせします）

JR成東駅周辺エリア 千葉北部の内房と外房を繋ぐ、古東京湾の堆積物と火山噴出物から構成される下総台地を駅周辺に抱えるエリア。

柴原エリア 氷河期の終焉による海水面の上昇で起こった縄文海進により、金剛地層と呼ばれる砂層が波に削られ露出した岩塊が点在するエリア。

山武市歴史民俗資料館エリア 現存する唯一の九十九里の湿原であり、1920年に国の天然記念物指定を受けた成東・東金食虫植物群落や、山武市の歴史や民俗史を展示する資料館、山武市を代表する歌人・伊藤左千夫の生家を擁するエリア。

九十九里浜エリア 屏風ヶ浦と太東崎の侵食による堆積物によって約6000年かけて形成されてきた九十九里平野の最先端であり、毎年数センチずつ前進し続けるエリア。



柴原地区岩塊(□武市指定□化財)



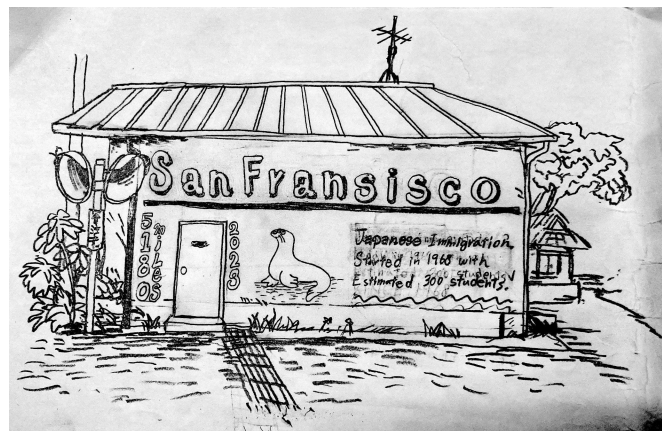
九十九里浜©Kenji Agata

■参加アーティスト（五十音順）

伊藤左千夫 / 井上修志 / 梅田哲也 / 大塚諒平 / 折原智江 / 加藤泉 / 橘田優子 (kitta 主宰) / 小林清乃 / SIDE CORE / 塩原有佳 / 庄司朝美 / Zenny (田井中 善意) / 立石従寛 / 藤生恭平 / MANTLE (伊阪柊+中村壮志) / 光岡幸一 / 保良雄



橘田優子 (kitta 主宰)
山武市百年後芸術祭のためのイメージドローイング



SIDE CORE
山武市百年後芸術祭のためのイメージドローイング



Photo by Clair Dom Courtesy of Perrotin
© 2020 Izumi Kato

加藤泉 [柴原エリア]

1969年、島根県に生まれ。東京、香港を拠点に活動。2007年、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展(イタリア)をきっかけに国際舞台で活躍。近年での個展は、Red Brick Art Museum(中国、2018年)、2019年、Fundación Casa Wabi(メキシコ)、原美術館/ハラミュージアムアーク(東京と群馬の2館同時開催、2019年)、SCAD Museum of Art(アメリカ、2021年)など。その他、ホワイトトリエンナーレ2022(2022年)、パブリックプロジェクトとして、Tai-Kwun(香港、2018年)、K11 MUSEA(香港、2022年-)、Un Été Au Havre(フランス、2022年)に野外彫刻を展示。

<https://izumikato.com/>



橘田優子 (kitta 主宰) [九十九里浜エリア]

1998年に独学で植物染色を用いた衣服の製作を始める。2011年より沖縄のやんばるを拠点に活動。物が生まれてから土に還るまでを分断のない一つの流れとして捉え、「自然と人間を媒介する」というコンセプトを軸に植物染色の衣服やアートピース、インスタレーションの制作を行う。kitta主宰。

<https://kittaofficial.com/>



Photo by : shin hamada

SIDE CORE [JR成東駅周辺エリア] [九十九里浜エリア]

2012年より活動を開始。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。公共空間におけるルールを紐解き、思考の転換、隙間への介入、表現やアクションの拡張を目的に、ストリートカルチャーを切り口として屋内・野外を問わず活動。

同時期開催中：横浜トリエンナーレ2024(横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、Bank Art KAICO、2024)、内房総アートフェス(木更津市金田、2024)

https://www.instagram.com/side_core_tokyo/



©Kito Natsuko

保良雄

フランスと日本を拠点に活動。2020年、École nationale supérieure des beaux-arts修了。テクノロジー、生物、無生物、人間を縦軸ではなく横軸で捉え、存在を存在として認めることを制作の目的としている。2018年ポルトランドのアーティスト・イン・レジデンス「END OF SUMMER」に参加。主な展覧会に、「私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために」(森美術館、2023-2024)、「エコロジー：循環をめぐるダイアログつかの間の停泊者」(銀座メゾンエルメスフォーラム、2024)、内房総アートフェス(君津、2024)など。

<https://www.yasuratakeshi.com/>



Photo by : Kiki Papadopoulou

梅田哲也 [パフォーマンスでの参加]

現地にあるモノや日常的な素材と、物理現象としての動力を活用したインスタレーションを制作する一方で、パフォーマンスでは、普段行き慣れない場所へ観客を招待するツアー作品や、劇場の機能にフォーカスした舞台作品、中心点を持たない合唱のプロジェクトなどを発表。先鋭的な音響のアーティストとしても知られる。近年の個展に「wait this is my favorite part / 待ってここ好きなどこなんだ」(ワタリウム美術館、2023-2024)、「梅田哲也 イン別府『O滞』」(2020-2021)、「うたの起源」(福岡市美術館、2019-2020)、公演には「9月0才」(高槻現代劇場、2022)、「Composite: Variations / Circle」(Kunstenfestivaldesarts 2017)、「INTERNSHIP」(国立アジア文化殿堂、2016、他)などがある。

<https://siranami.com/>



井上修志 [柴原エリア]

1995年 宮城県生まれ。2021年 東京芸術大学美術修士取得。個展に「一周の螺旋は円にも見える」(AIR motomoto、熊本、2023)、主なグループ展に「黄金町バザール2024」(高橋ビル、神奈川、2024)、「万田坑芸術祭」(万田坑、熊本、2023)、「KAWAKYU ART Exhibition 2022」(ホテル川久、和歌山、2022) などがある。

<https://shujiinoue.net/>



大塚諒平 [九十九里浜エリア]

1992年 東京生まれ。2022年 東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。身体を経験に興味がある。最近のテーマは「現実はどこにある?」、「実感と情報、ちぐはぐな身体」。

<https://www.ryoheiotsuma.com/>

<https://www.instagram.com/ryohei.otsuka/>



折原智江 [九十九里浜エリア]

2017年 東京芸術大学大学院美術研究科先端表現科修了。ルーツやバックグラウンドへのまなざしを起点に、マテリアル研究と個人的身体感覚と認識を織り交ぜて作品制作をしている。個人的な経験から出発しながら、死者と自分、過去と現在などの対立をシリアスかつユーモラスに越境していく。

<https://www.instagram.com/oriharaa/>



小林清乃 [柴原エリア]

愛媛県生まれ。東京在住。主な展示に「Polyphony1945」(資生堂ギャラリー、2019)、「インタビューセッションセラピー 交わるとき、あなたの語ることの声」(Yale Union 米国、2018)。2021年より川村文化芸術振興財団 ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援の助成を受け、星の運行の視座から原発事故後の人間と動物との関係性について考察するプロジェクト「永い時間と牛飼いの方角、光の声」を現在も継続中。失われたものの「声」を呼ぶこと、呼び覚ますことをテーマに歴史の記述から埋もれた事象や物語りを掘り起こす。近年ではボイスサウンドを扱うことであらたな口伝えの形態となりえる表現を探求している。

<https://linktr.ee/kiyonokobayashi>



塩原有佳 [九十九里浜エリア]

1985年 茨城県生まれ。2008年 名古屋造形芸術大学造形芸術学部 美術学科 洋画コース卒業。2007年短期交換留学 アカデミー・ミネルヴァ(オランダ)。主な展示として「二人展:塩原有佳、石井佑果」(Satoko Oe Contemporary 東京、2022)、VOCA展2022(上野の森美術館、東京、2022) ART IN TIME&STYLE MIDTOWN vol.19 "INDISTINCT IMAGES"(TIME&STYLE MIDTOWN、東京、2021)、シェル美術賞展2020(新国立美術館、東京、2020)

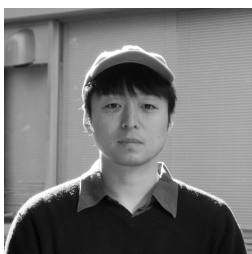
<https://yukashiobara.tumblr.com/>



庄司朝美 [歴史民俗資料館エリア]

画家。2012年多摩美術大学大学院版画研究領域修了。主な個展に「足のない歩行」(gallery21yo-j、東京、2023)。主なグループ展に「Body, Love, Gender」(Gana Art Center、ソウル、2023)「Gestures of Resistance」(A.I. Gallery with Linseed Projects、ロンドン、2023)「頭神の夢」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川、他全国巡回、2023-24) 主な受賞歴に五島記念文化賞 美術新人賞(2020)、「FACE2019」グランプリ(2019)。2022年、ジョージア国にて五島記念文化財団の助成による1年間の在外研修を行う。

<https://shojiasami.com/>

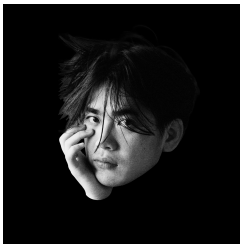


Zennyan (田井中 善意) [歴史民俗資料館エリア]

1984年千葉県生まれ。伝統工芸と現代美術を実践した後、ピクセルアート制作を開始。ドット絵専門のイラストレーターとして活動を行いながら、ビデオゲームの表象をテーマにした作品を制作する。アート、デザイン、エンターテインメントと領域を横断しながら活動中。

<https://linktr.ee/zennyan>

参加アーティスト・展示エリア



立石従寛 [歴史民俗資料館エリア]

1986年シカゴ生。現代アーティスト。仮想と現実、自然と人工など、相対する境界の分解と合成を提示する。森の中に鑑賞空間を持ち込む「In(to)stallation」など美術作品に加え、音楽や映画など無領域的に活動。英国「New Contemporaries」入選。英国Royal College of Art修了。

<https://jukan.co/>



藤生恭平 [九十九里浜エリア]

1989年三重県生まれ。2024年東京藝術大学大学院美術研究科GAP課程修了。2022年トルコへ留学。“収集物や拾得物の前後の物語へと介入し、土地や風景について考え、作品制作をする。

「三川合流シュート」(ALTERNATIVE KYOTO in 八幡、松花堂庭園美術館、2021)、「Container with Hole」(FREYAalt、イスタンブール、2023)など

<https://fujiokyohei.jp/>



MANTLE (伊阪柁+中村壮志) [JR成東駅周辺エリア]

伊阪柁と中村壮志によって結成されたアートコレクティブ。あらゆるサイトスペシフィシティにアクセスし、直接見るできないような現象や、人間の時間軸を超えた長/短期的な事象のシミュレーションを行う。その過程で起こる偶然やエラーさえも作品に取り入れながら、遊戯的にも感じる手法で、現在とまだ見ぬ時空との接点を見出していく。

<https://www.instagram.com/mantle2022/>



光岡幸一 [九十九里浜エリア]

名前は、字がすべて左右対称になる様にと祖父がつけてくれ、読みは母が考えてくれた。(ゆきかずになる可能性もあった。)宇多田ヒカルのPVを作りたいという、ただその一心で美大を目指し、色々あって今は美術家。

https://www.instagram.com/mitsuoka_mitsuo



伊藤左千夫 [歴史民俗資料館エリア]

元治1(1864)年～大正2(1913)年。本名 伊藤幸次郎、別号 春園・楽尊・無一塵庵主人 他 職業 搾乳業・歌人・小説家

武射郡殿台村(現山武市)出身。正岡子規に短歌を学ぶ。

蕨真等と協力し雑誌「阿羅々木」(後に「アララギ」)を創刊し、斎藤茂吉・土屋文明などアララギ派を代表する歌人を育成。『野菊の墓』他多数の小説を書き、子規に「茶博士」と呼ばれる程、茶の湯にも通じていた。

■アート作品展示 関連プログラム

※各プログラムの実施詳細は、後日公式ウェブサイトにてお知らせします。

梅田哲也パフォーマンス

開催日時：2024年5月18日(土) 13時、17時より各1時間程度を予定 (要事前申し込み)

ワークショップ「100年後あける梅干しを漬ける」

自分の食べることをない、梅干しを100年後の人のために漬けるというちょっとした希望を梅干しというタイムカプセルにのせて100年後の人へ贈り物をしてみませんか？100年後あける梅干しを漬けるワークショップを会期中に開催します。(要事前申し込み)

アーティスト：大塚諒平

夕暮れ映像上映会

50年前の千葉の風景を民族文化映像研究所の映像で思い返すプログラム

会場：九十九里浜

音楽パフォーマンス

■小林武史 × 四家卯大

開催日：2024年4月27日(土)

会場：成東・東金食虫植物群落 (国指定天然記念物)

要事前申し込み（2024年4月10日（水）受付開始予定）

※実施詳細は後日公式ウェブサイトにてお知らせします。



小林武史

音楽家。80年代から現在まで数多くのアーティストプロデューサーや映画音楽を手がけ、日本の音楽シーンを牽引する第一人者。Mr.Childrenの櫻井和寿、坂本龍一氏と非営利団体「ap bank」を立ち上げ、野外音楽イベント「ap bank fes」の実施のほか、東日本大震災後は復興支援活動に従事し、芸術祭「Reborn-Art Festival」を立ち上げるなど、様々な活動を行なっている。エネルギーと食の循環を体現できる「KURKKU FIELDS」を始めるなど、サステナブルな社会への取り組みにいち早く先鞭をつけてきた総合プロデューサーである。「百年後芸術祭」の総合プロデューサーも務める。



四家卯大

ロック、ポップス、ジャズ、クラシック、即興音楽と多彩なジャンルで活躍する土俗的チェリスト。

2010年代の日本の商業音楽界を支えるトップ・ストリングスアレンジャーのひとり。

近年では Bank Band、Mr.Children、ONE OK ROCKをはじめ、多数のロックバンドにストリングス担当として演奏&アレンジで参加。

2019年10月にはバッハの無伴奏チェロ組曲に挑戦した「たいようの谷」をリリース。

オリジナル曲やクラシックに即興を取り入れた演奏スタイルも得意とする。

2021年より、東京芸大出身のマルチサクソプレイヤー竹内理恵と「ミニマル音楽をミニマムな編成で」をモットーにミニマルエンジンとしても活動をしている。

<http://udai66.com/>



会場：成東・東金食虫植物群落 (国指定天然記念物)

モウセンゴケやミミカキグサなど8種の食虫植物を中心として、450種類を超える湿原植物が自生している。104年前に、日本最初の国の天然記念物に指定された。

■切腹ピストルズ

開催日：2024年4月27日(土)

会場：九十九里浜エリア

事前予約不要

※実施詳細は後日公式ウェブサイトにてお知らせします。



切腹ピストルズ

「反近代」を旗印に、おもに和楽器による演奏で全国各地を練り歩く。日本各地に散らばる隊員は二十数名。

奉納演奏、村祭り、ライブハウス、デモ、芸術祭など、神出鬼没な演奏を得意とし、地方探索と研究、農、職人、寺子屋、落語など、隊員それぞれが展開している。

その主張や野良着の風貌から「江戸へ導く装置」と呼ばれる。

山武市百年後芸術祭_開催概要

■名称 千葉県誕生150周年記念事業 山武市百年後芸術祭

■略称 山武市百年後芸術祭

■公式ウェブサイト <https://100nengo-art-fes.jp/sammu/>

■開催期間 2024年4月27日(土)～2024年5月19日(日) 土日祝のみ開催 [11日間]

■開催時間 10時～17時

※山武市歴史民俗資料館は、10時～16時15分となります。

※作品によって公開日・公開時間が異なる場合があります。

■会場 千葉県山武市

■アート作品展示会場 JR成東駅周辺エリア、柴原エリア、山武市歴史民俗資料館エリア、九十九里浜エリア

■音楽パフォーマンス会場

成東・東金食虫植物群落(国指定天然記念物)、九十九里浜エリア

■観賞チケット

一般 1,000円／小中高 500円／小学生未満 無料

※千葉県内の小中高学生は無料。

受付にて生徒手帳、同伴保護者の住所がわかる証明書(運転免許証、保険証、パスポート等)をご提示ください。

※障がい者手帳をお持ちの方は無料。(介添が必要な場合は同行者1名無料)

※アート作品展示の全会場へ当日限り何度でも入場可能。(ただし、有料イベントや有料ワークショップなどは別料金)

※当日券のみの販売となります。

※再発行、払い戻し不可。

■インフォメーション 成東駅前観光交流センター

■観賞チケット販売場所 成東駅前観光交流センター、南浜エリア受付

■主催 山武市百年後芸術祭実行委員会

■協賛



株式会社 合同資源
GODO SHIGEN CO.,LTD.



NAMIKAWA

INPEX



有限会社武石

成田国際空港株式会社 | 有野実産業株式会社 | 大高醤油株式会社 | おしゃれサロンTAKI | 株式会社斉藤自動車工業 | 株式会社 清左工門 | 有限会社みその水道設備工業 | 株式会社 街波通信社 | 若林良光 | 全日本空輸株式会社成田空港支店 | 日本航空株式会社 | a.Un | 石井工業株式会社 | エレビスタ株式会社 | 合資会社 寒菊銘醸 | 有限会社サクラ電設 | 山武市成東観光苺組合 | 寿司・割烹 宝寿し | 千葉県レクリエーション都市開発株式会社 | NorA | HAPPY NUTS DAY | 森の中のレストラン ふらんす屋

■協力 一般社団法人 Reborn-Art Festival

山武市百年後芸術祭_開催概要

■ボランティアスタッフ募集

一緒に山武市百年後芸術祭を盛り上げてくれるボランティアスタッフを募集します。

メイン活動期間：2024年4月27日(土)～5月19日(日) 土日祝日のみ [11日間]

※活動内容によって、上記期間外に行うサポートもあります。

活動内容：アーティストサポート、会場運営サポート、広報サポート、イベントサポートなど
公式ウェブサイトにて内容をご確認のうえ、申し込みフォームからお申し込みください。

山武市百年後芸術祭とは

100年後の未来を考えることは容易ではありません。

山武市百年後芸術祭では、これまでの100年を考えることで現在を考え、更にこれからの100年を想像します。

芸術祭の会場となる地域は、大昔は海底でした。

山武市は内房まで繋がる下総台地と裾に広がる九十九里平野で構成されています。

下総地層は縄文海進によって海岸線が露出しており、その痕跡は浪切不動院や線路沿いに点在する岩塊から見て取れます。

九十九里平野は屏風ヶ浦と太東崎からの堆積物によって形成され、かつては一年で1メートル、防波堤の建設により侵食のスピードが鈍っている現在でも年に数センチ太平洋に前進しています。

その九十九里平野は湿地と砂丘が交互に海岸線と平行して並んでおり、食虫植物群落には湿地に独特の生態系が育まれ、長年人間の営みとともに生態系が変化してきました。

度々の地震での津波の影響や近代化の影響も土地に具に表れている地域でもあります。

山武市百年後芸術祭では、アーティストの作品と、すでにそこにある自然物やアーティファクトをつなぎ、100年後のために今何ができるのか、考える機会を提示したいと考えています。

■総合プロデューサー 小林武史

■ディレクター 保良雄

■アートディレクター 岡崎 真理子(REFLECTA, Inc.)

■クリエイティブ・メディアーター 花岡美緒



公式ウェブサイト
<https://100nengo-art-fes.jp/sammu/>

本リリース内容に関するお問合せ先

山武市百年後芸術祭実行委員会 事務局 (山武市役所 総合政策部企画政策課内)

〒289-1392 千葉県山武市殿台296番

TEL 0475-80-1131 E-Mail sammu100art@city.sammu.lg.jp